

第27回 BELCA 賞決定

第27回BELCA賞について、同賞選考委員会による厳正な選考の結果、表彰建築物10件（ロングライフ部門4件、ベストリフォーム部門6件）を次の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、表彰式は平成30年5月17日（木）、ロイヤルパークホテル（東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1）にて開催する予定です。

ロングライフ部門においては、建築物の所有者・設計者・施工者・維持管理者が受賞者となり、ベストリフォーム部門においては、建築物の所有者・改修設計者・改修施工者が受賞者となります。

ロングライフ部門表彰建築物（順不同）

表彰建築物名	所在地 所有者	竣工年 設計者	用途（現在）	
			施工者	維持管理者
1 群馬会館	群馬県前橋市大手町二丁目1番1号	1930年	公会堂	
	群馬県	佐藤 功一（新築）、群馬県（改修）、協同組合群馬県建築設計センター〔㈱石井設計、㈱丸進建築設計事務所、㈱下田設計〕（改修）、㈱坂倉建築研究所（改修）	井上工業㈱（新築）、佐田建設㈱（改修）、利根電気工事㈱（改修）、金井興業㈱（改修）	群馬県総務部管財課
2 通天閣	大阪府大阪市浪速区恵美須東1丁目18-6	1956年	道路上建造物	
	通天閣観光㈱	内藤多伸（新築）、㈱竹中工務店（新築・改修）、㈱日立建設設計（改修）、㈱日立製作所（改修）、㈱奥村組（改修）	㈱奥村組（新築・改修）、飛鳥建設㈱（改修）、㈱日立製作所（改修）、㈱竹中工務店（改修）	通天閣観光㈱、㈱日立ビルシステム
3 ホテルニューグランド本館	神奈川県横浜市中区山下町10番地	1927年	ホテル	
	横浜市、㈱ホテル、ニューグランド	渡邊 仁（新築）、清水建設㈱（改修）	合資会社清水組〔現 清水建設㈱〕（新築）、清水建設㈱（改修）	㈱ホテル、ニューグランド
4 町田市立国際版画美術館	東京都町田市原町田4-28-1	1986年	美術館	
	町田市	大字根・江平建築事務所〔現 大字根建築設計事務所〕	大成建設㈱、小田急建設㈱、高尾建設㈱	町田市

※受賞者名は今後変更されることがあります。

ベストリフォーム部門表彰建築物（順不同）

表彰建築物名	所在地 所有者	竣工年	改修年	改修前用途	改修後用途
		改修設計者		改修施工者	
1 小津本館ビル	東京都中央区日本橋本町三丁目6番2号	1971年	2015年	店舗、事務所	店舗、事務所
	㈱小津商店	鹿島建設㈱、㈱剣持デザイン研究所		鹿島建設㈱	
2 北菓楼札幌本館	北海道札幌市中央区北1条西5丁目	1926年	2016年	事務所（北海道立文書館別館）	物販店舗
	合資会社ホリホールディングス	㈱竹中工務店、安藤忠雄建築研究所、(有)西島設計		㈱竹中工務店、三鉦建設㈱、東洋建設工機㈱、加茂川啓明電機㈱	
3 群馬県立歴史博物館	群馬県高崎市綿貫町992番地1号	1979年	2016年	博物館	博物館
	群馬県	㈱日本設計		佐田建設㈱、神宮工業㈱、昭和建業㈱、㈱群電、門倉電機㈱、㈱ヤマト、金井興業㈱、藤田エンジニアリング㈱、㈱丹青社	
4 新宿三井ビルディング	東京都新宿区西新宿二丁目1番1号	1974年	2016年	事務所、店舗、駐車場	事務所、店舗、駐車場
	三井不動産㈱	㈱日本設計、三井デザインテック㈱、鹿島建設㈱		鹿島建設㈱、三井デザインテック㈱、東光電気工事㈱、㈱城口研究所、三機工業㈱、新日本空調㈱	
5 土浦市庁舎	茨城県土浦市大和町9番1号	1997年	2015年	大型物販店	市役所
	土浦市	㈱久米設計		㈱熊谷組、㈱山本工務店	
6 ロームシアター京都（施設名称：京都会館）	京都府京都市左京区岡崎最勝寺町13	1960年	2015年	集会場	劇場、物販店舗、飲食店
	京都市	香山壽夫、香山壽夫建築研究所、㈱大林組、㈱藤井組、㈱岡野組、㈱きんでん、東洋熱工業㈱、㈱東畑建築事務所		㈱大林組、㈱藤井組、㈱岡野組、㈱きんでん、東洋熱工業㈱	

※受賞者名は今後変更されることがあります。

第27回 BELCA 賞の概要

- 目 的** 長期にわたって適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものを選び、その関係者を表彰することにより、わが国における良好な建築ストックの形成に寄与することを目的とします。
- 主 旨** ロングライフ部門では、長期使用を考慮した設計のもとで建設されるとともに、長年にわたり適切に維持保全され、さらに今後相当の期間にわたって維持保全されることが計画されている、模範的な建築物を表彰し、ベストリフォーム部門では、社会的・物理的な状況の変化に対応して、今後の長期使用のビジョンを持って蘇生させる、もしくは飛躍的な価値向上等をさせるリフォームがなされた、模範的な建築物を表彰します。
- 対 象** ロングライフ部門は、長期使用を考慮した設計のもとで建設されるとともに、建設後30年以上にわたり適切に維持保全され、さらに今後10年以上にわたって維持保全されることが計画されている建築物が対象となります。ベストリフォーム部門は、社会的・物理的な状況の変化に対応して、今後の長期使用のビジョンを持って蘇生させる、もしくは飛躍的な価値向上等をさせるリフォームがなされ、リフォーム後1年以上かつ5年未満の建築物が対象となります。
- 選 考** 選考は、建築学界、建物所有、設計、建設、設備、メンテナンスといった多分野からなる「第27回 BELCA 賞選考委員会」（委員長：内田 祥哉 東京大学名誉教授）により行われました。
- 受賞件数** 今回を含め、ロングライフ部門120件、ベストリフォーム部門146件、合計266件が受賞しています。
- 次回募集** 第28回の募集は本年6月1日(金)より7月2日(月)17:30まで行う予定です。

第27回 BELCA 賞選考委員会（順不同・敬称略）

- 委 員 長 内田 祥哉（東京大学 名誉教授）
- 委員長代理 三井所清典（㈱アルセッド建築研究所 代表取締役、芝浦工業大学 名誉教授）
- 副 委 員 長 鎌田 元康（東京大学 名誉教授）
- 副 委 員 長 深尾 精一（首都大学東京 名誉教授）
- 委 員 枝川裕一郎（グローブシップ㈱ 常務取締役）
- 委 員 川島 克也（㈱日建設 代表取締役副社長 設計部門統括）
- 委 員 北 典夫（鹿島建設㈱ 執行役員 建築設計本部 副本部長）
- 委 員 倉田 昌典（高砂熱学工業㈱ 執行役員 事業革新本部 特命担当）
- 委 員 菅 順二（㈱竹中工務店 常務執行役員）
- 委 員 牧野 俊亮（㈱関電工 常務執行役員 戦略事業本部長 兼 営業統轄本部副本部長）
- 委 員 丸山 裕弘（三井不動産㈱ ビルディング本部 本部長補佐）
- 委 員 村山 寛（㈱アール・アイ・エー 東京支社 統括部長 兼 設計二部部長）

※ 各委員の役職は選考時のものです。

第27回 BELCA 賞選考総評

BELCA 賞選考委員会 委員長 内田 祥哉

BELCA 賞は、良好な建築ストックが、現代社会の中で生き生きと活用されることを目的に設けられた賞である。賞を2部門に分け、長年にわたり適切に維持保全され、今後も長期保全の計画がある模範的な建築物をロングライフ部門、社会の変化に対応したリフォームにより、見事に蘇生した建築物をベストリフォーム部門として、平成3年から昨年までで表彰件数は256件を数えている。

BELCA 賞への関心は年々高まりつつあるが、現代社会の中で活用されるためには、ロングライフ部門でも設備の抜本的現代化が必要であり、ベストリフォーム部門では建築寿命の長期化に伴い、利用者達の建物への愛着を重んじる傾向が増している。そこで近年は、両部門の件数をあらかじめ定めず、合わせて10件を選考することにしており、本年の表彰建築物はロングライフ部門4件、ベストリフォーム部門6件となった。

今回表彰されるロングライフ部門では、87年前の創建当時の意匠を蘇らせた公会堂、中間階免震改修による電波塔、90年前の姿を維持したクラシックホテル、そして、市民協働の場となっている我が国唯一の版画美術館が入選した。

また、ベストリフォーム部門では、一階柱頭免震を採用した老舗ビル、歴史的図書館を保存した物販店、当初の意匠はそのままに新たな性能へ対応した博物館、築43年でありながら新築同等の競争力を持たせた超高層ビル、大型物販店舗を市民に親しまれる空間へ蘇らせた市役所、そして、モダニズムの名建築の機能向上を実現した劇場が入選した。

これらの建築物をみると、ロングライフ部門では竣工後30年をわずかに超えたものがあるのに対し、ベストリフォーム部門には90年を越えるものもあり、建築年齢上からも両部門を区別するのは難しかった。

また今回は、群馬県の所有する建築物がロングライフ部門とベストリフォーム部門の双方に入選したことが特筆される。

応募作品の水準が年ごとに高まっていることは、昨年以上に感じられるが、惜しくも選に漏れた建築物については、更に充実した内容で再度の応募を期待したい。

BELCA 賞の周知の範囲は次第に広まって、未だ受賞建築物を持たない地域は7県になっている。更に全国的普及を目指す賞の趣旨から、未受賞の地域からの応募を切に期待したい。

第27回 BELCA 賞ロングライフ部門選考評

BELCA 賞選考委員会 副委員長 鎌田 元康

今回・第27回のBELCA賞の総応募件数は、部会制による選考を廃止し、ひとつの委員会にて両部門の選考を行うなどと、選考規定を改定した2001年度・第11回以来の平均件数を1割ほど上回った昨年度と同数であった。慎重審議の結果、表彰件数はロングライフ部門4件、ベストリフォーム部門6件となったが、両者の比率が応募件数の比率と完全に一致するという、過去にない結果となった。ロングライフ部門で表彰に値するとして選定された建物は、①1930年竣工のレストラン・ホール・貸会議室等からなる公会堂、②1956年竣工の展望台・娯楽施設・店舗等からなる道路上建築物、③1927年竣工のホテル本館、④1986年竣工の美術館と、竣工年度・用途とも多岐にわたる。

表彰案件4件の詳細は、この後記載されている個別の選考評をお読みいただくとして、表彰に値すると判断された理由等の概要を示すと、以下のようになる。

①は、昭和天皇の即位を記念し、佐藤功一の設計により建設された群馬県初の公会堂建築であり、数度にわたる改修が行われた「群馬会館」である。2015年には、ホール天井の耐震化とあわせた内装の全面改修が、当初の設計図がなく関連資料が乏しい中で、現地調査・残存写真・佐藤の他の設計事例などを手掛かりに“創建当初の意匠を蘇らせる”という方針により行われ、適切な手法と丁寧な施工により目的を達成している。適切な維持・管理、改修が行われてきており、築100年・2030年までの詳細な維持保全計画が策定されていること、当初より開業しているレストランオーナーの建物への愛着をもった接し方などが評価された。

②は、内藤多伸・竹中工務店設計の二代目「通天閣」であり、南海トラフ大地震に耐えうるよう、道路を跨いだ建築物という制約から下部展望台までのエレベーター棟がタワー部分と別構造になっていたことを活かして、2015年に下部展望台下での中間階免震構造へ改修したものである。既存骨組みの形に配慮した補強や化粧によって、まちに対して圧迫感、閉鎖感を感じさせない中間免震装置、その部分を利用しつつ外観にも配慮しながら目視点検を容易にしている電気配線、給水・排水管の脚部露出配管、コストを抑えたと思われる内装の改修には野暮ったさも感じるものの、逆にノスタルジックな印象を与える点などが評価された。

③は、度重なる増改築を重ね、1991年の新館増築の際に行われた中庭を公開空地として整備するとともに、本館全体の外観を竣工時にできるだけ近づける復原改修、設備の大幅改修などにより、第5回（1995年）ベストリフォーム部門を受賞した渡邊仁 設計の、“横浜の迎賓館”とも称される「ホテルニューグランド本館」である。今回の保存改修の中心は、本館2階ロビーとレインボーボールルームの左官仕上げ大規模天井の耐震改修であり、入念な耐震計画にもとづき、実大振動実験で確認した上での卓越した職人技の活用・BIMを利用した新しい施工技術の活用などにより、見事に改修工事を完了させた点が高く評価された。

④は、少ない学芸員でも問題なく運営できること、メンテナンスフリーで長寿命な建物とすることを念頭に、大字根・江平建築事務所により設計された、我が国で唯一の“版画”をテーマとした「町田市立国際版画美術館」である。ロングライフ部門の応募条件である“竣工後30年以上”ギリギリの建物であるが、綿密に検討された工法・材料が用いられ、30年経過による汚れなどを感じさせないこと、いわゆる“ハートビル法”の制定された1994年以前の竣工にもかかわらず、町田市が1974年に全国に先駆けて“車いすで歩けるまちづくり”宣言を出していたためか、身障者対策が竣工当初よりなされていたことなどに感心させられた。

第27回 BELCA 賞ベストリフォーム部門選考評

BELCA 賞選考委員会 副委員長 深尾 精一

BELCA 賞表彰件数10件の中で、今回も昨年に引き続き、6件がベストリフォーム部門での表彰対象となった。近年は、ベストリフォーム部門の対象建築物も、戦前に建設されたロングライフのものが多くなっていたが、今回は、戦前に建設されたものは1件のみで、戦後のものが5件となっている。

当初の建築年が戦前である「北菓楼札幌本館」は、北海道庁立図書館として1926年に建設され、その後、道立美術館を経て道立文書館別館となっていたものである。道が売却するにあたり、外壁の一部保存を要件とした公募型プロポーザルを行い、その結果、カフェを含む店舗にリフォームされている。特に歴史的価値が高いファサードと玄関部のみを残し、他のほとんどの部分は新築としているが、道立文書館別館への改修で仕上げされていた保存部分の煉瓦造壁体の内側仕上げを剥がし、煉瓦を内装の要素とするなど、意欲的なリフォームとなっている。

「ロームシアター京都」は、前川國男により1960年に建設された京都会館の改修である。音響と使い勝手に課題のあった第一ホールは解体新築されているが、その他の部分は、現在の要求機能に対応するよう様々な手が加えられ、保存再生されている。中庭側のピロティの一部は内部化され、使い勝手のよいホール建築となっているが、設計者が「裳階のような手法」と呼ぶように、新たに付け加えられた建築的要素と元の建築が見事に一体化している。

「小津本館ビル」は、日本橋に立地する老舗の商店の免震化リフォームである。1971年建築の、いわゆる旧耐震建築物であるが、地域に根ざす企業として既存の建築を大切に使い続けるという趣旨から大改修が行われている。敷地境界の条件などから、一階柱頭での免震が採用されているが、外観では江戸を意識した庇の工夫により、そして内部は間仕切り壁上部の納まりの工夫などによって、見事な仕上がりとなっている。1970年代前後の中規模ビルの耐震改修事例として、設備やEVの処理なども、参考となるものである。

1974年竣工の「新宿三井ビルディング」は初期の優れた超高層ビルとして、1998年にロングライフ部門で第7回のBELCA賞を受賞しているが、今回は、共用空間の魅力度向上や長周期地震動対策のために行われた大規模改修によって、ベストリフォーム部門での表彰となった。特筆すべきはバックの諸室の整備で、ビルを支える人々が快適に働けることがビルの価値を高めている。また、長周期地震動対策には、屋上に吊るされた重量のある錘とダンパーを用いているが、施工中も施工後も、執務空間に影響を与えていない。

「群馬県立歴史博物館」は、1979年に大高正人によって設計された建築で、高い評価を受けてきたが、数年前に不具合のため文化庁の公開承認施設の登録が取り消されていた。それへの対応が主目的の改修であり、当初の特徴的な意匠は継承しつつ、エントランスロビーの環境改善などを図っている。また、中庭に面する軒下を内部空間化することにより、新たな使いやすい動線を可能にしている。今後の長期修繕計画・整備計画が策定されており、公共建築物の優れたリフォーム事例となっている。

以上の40年以上経過した建築物のリフォームに対し、「土浦市役所」にコンバージョンされた建築は、1997年に建設された大型物販店舗であり、築後20年経っていない建築のリフォーム事例である。新たな市役所の整備にあたり、土浦駅前の大規模店舗を入手し、大きなフロア面積を生かして、ゆったりとした市民に開かれた市役所を実現している。面積にゆとりがある分、賑わいにかかる印象もあるが、新設ではない庁舎建築を作り出す今日的な手法である。

以上のように、今回の表彰対象も、当初の建築が高名な設計者によるものもあれば、特に優れた建築作品とは見られていなかった建物の活用の事例もあった。典型的な公共建築から純粋な民間のビルまで、そのバリエーションも前回と同様、多様なものであった。リノベーション・コンバージョンが建築の重要な分野となった証であろう。